

# 社会科NEWSレター

## 2月11日は建国記念の日

### 建国記念の日とは

初代の天皇である**神武天皇が即位されたと伝えられている日**です。古い日本の言い伝えでは、神武天皇は紀元前660年の正月元旦に奈良県の橿原（かしはら）で即位されました（実際にはその600年くらい後のことだと考えられています）。建国記念の日の前身である紀元節（きげんせつ）が定められたのは、明治6（1873）年のことです。西洋文明が流入し、暦が太陰暦から太陽暦に改められるのと同時に2月11日に定められました。我が国が近代国家として生まれ変わる過程で、建国の日が「明治維新記念日」ではなく、「紀元節」であったことにも注目すべきです。

ちなみに初めて祝日法が制定された明治6年に定められた祝祭日は8つありますが、その中で現在まで続いているのは3つです。すなわち、2月11日の紀元節（建国記念の日）、11月3日の天長節（明治天皇誕生日で現在の文化の日）、11月23日の新嘗祭（勤労感謝の日）です。中でも建国記念の日は一度廃止されて復活したという経緯があります。昭和20年から27年まで、我が国は占領下に置かれました。昭和23年4月施行の祝日法で多くの祝祭日が名称を変更して存続する中、占領軍の命令により紀元節は廃止されました。サンフランシスコ平和条約が発効し主権が回復すると、議論の結果、昭和41年（1966）に「建国記念の日」として復活しました。

### 神武天皇とは

『古事記』は上つ巻、中つ巻、下つ巻に分かれています。上つ巻は神々の物語、つまり神話です。中つ巻からは人の名前が語られています。つまりここから歴史になります。その最初に出てくる人物が、天照大神の子孫で、後の神武天皇となる神倭伊波礼毘古命（カムヤマトイワレビコノミコト 以後「イワレビコ」と略記）です。その頃イワレビコは日向（宮崎県）にいましたが、「どこに住めば平和に天下を治めることができるだろうか」と考えて、何年もかけて東へ、東へと移動していきました。これを「神武東征（じんむとうせい）」と言っています。



宇沙（大分県）→岡田宮（福岡県）→多祁理宮（たけりのみや）→高島宮（岡山県か広島県）と移動し、大阪湾から上陸しようとするが、その土地を支配している登美能那賀須泥毘古（トミノナガスネビコ）との戦になります。この戦いでイワレビコの兄の五瀬命（イツセノミコト）も命を落とします。「日の神の御子である自分たちが、日の昇る方角に向かって戦ったのが良くなかった」と考えて、南にまわり熊野（和歌山県）に上陸し、そこから大和（奈良県）を目指します。中には敵対する勢力もありましたが、やがて多くの人々がイワレビコに従うようになりました。この熊野から大和への道案内を務めたのが、高天原（たかまがはら＝神様の住む国）から派遣された八咫鳥（やたがらす）です。この足が三本あるという八咫鳥は、道案内だけでなく敵対勢力を従わせる使者の役割を果たしたと考えるべきでしょう。やがて大和に入ったイワレビコは橿原（奈良県）で天皇として即位の儀式を取り行いました。これをもって日本の建国とされていますが、この年代ははっきりしません。また、このように記録はされているものの、実在を証明することもできませんが、何らかの史実を反映した言い伝えであると考えられます。



サッカー日本代表のエンブレムに描かれた八咫鳥

### 建国を祝うことの意義

神武天皇が即位したとされる奈良県の橿原市には、神武天皇をご祭神とする橿原神宮があります。建国記念の日には盛大に紀元祭（きげんさい）が行われます。

麗澤高校卒業で、現在国学院大学講師をされている神道学者・皇室研究家の高森明勅（たかもりあきのり）氏はこのように述べています。

「日本人は古くから、時代の大きな危機や困難に直面したり、新しい時代の飛躍を目指そうとする時、日本の原点、建国のいにしえに思いを馳せ、そこから歴史を越えた理念やメッセージをつかみ出し、これを未来開拓の力強い原動力としてきました。」（『この国の生い立ち』より）



橿原神宮で行われる紀元祭

### まとめ

- ・ 「建国記念の日」は初代天皇である神武天皇が即位されたと伝えられる日です。
- ・ 建国を記念する祝日は「紀元節」として明治時代に制定されましたが、GHQの政策で廃止され、主権回復後に「建国記念の日」として復活しました。